

令和7年度使用中学校教科用図書審議会

第2回会議録

日時：令和6年6月19日（水）

17時58分～19時57分

場所：文京シビックセンター20階

教育委員会室

文京区教育委員会

令和7年度使用中学校教科用図書審議会（第2回）会議録

日時：令和6年6月19日（水）17時58分～19時57分

場所：文京シビックセンター20階 教育委員会室

「出席」	委員	長	土井佳奈
	委員		浅野由美子
	委員		諸石智彦
	委員		大井明彦
	委員		八木章雄
	委員		田中繁広
	委員		南英昭
	委員		今野稔恵

「幹部職員」	教育指導課長	山岸健
--------	--------	-----

「事務局」	統括指導主事	高橋拓也
	指導主事	上野義博

○ **担当** それでは、皆様おそろいになりましたので、これより進めさせていただきたいと思えます。

改めまして、こんにちは。本日、全員の出席を確認させていただいております。第2回審議会のほうもよろしくお願ひいたします。

それでは、私のほうから、最初に資料の確認をさせていただきたいと思えます。

次第の下のほうに資料の一覧をお示しいたしました。本日は資料1と資料2をお配りさせていただいております。過不足がございましたらお声がけください。

よろしいでしょうか。

それでは、早速、委員長に審議を進めていただきたいと思えます。よろしくお願ひいたします。

○ **委員長** それでは、皆さん、こんにちは。

たくさん教科書が並んでおります。今日からいよいよ始まりますが、本当に短い時間の中でいろいろと審議していきますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

それでは、ただいまより、令和7年度中学校教科用図書審議会（第2回）を開催いたします。

初めに、審議の進め方について申し上げます。

本日から教科用図書について、調査研究委員会の報告を基に、各発行者の教科用図書を比較、検討の上、文京区立中学校が令和7年度より使用する教科用図書として望ましいものを答申するための審議をしていく予定です。

配付資料につきましては、先ほど事務局より確認がありましたとおりです。審議を進めるに当たりましては、調査研究委員会のまとめ、基礎資料を基にしたいと思えます。

最後に、記録の情報公開について申し上げます。

本審議会の審議の内容については、個人名を伏せて話を要約させていただいたものを記録としてまとめることとします。

記録については、8月31日まで時限秘となり、それ以降、情報公開の対象となりますので、御承知おきください。

それでは、審議を始めます前に、副委員長から今日の審議について確認をいたします。

○ **教育指導課長** それでは、本日の審議、よろしくお願ひいたします。

今、進め方は委員長からもございましたが、限られた時間ですので、それぞれの教科書のよいところや特徴を御発言いただき、それを答申に生かしていくというように考えていただければと思えます。

その際の視点ですけれども、前回の資料に実施細目がございましたが、例えば、内容としては教育委員会の教育目標を実現できる内容であるか、文京区の子供たちの実態に合っているかどうか、正確さや分かりやすさ。構成では、配列や系統性、一貫性、読みやすさ、見やすさ、分量、使いやすさというような視点がございまして、そういった視点でよりよいところ、あるいは特徴となるところを、それぞれの委員の視点で御発言いただければと

思っております。

皆様に御発言いただいた内容が答申に反映されてまいりますので、ぜひ活発な御意見を
お願いできればと思っております。よろしくお願い申し上げます。

○ **委員長** ありがとうございます。

では、初めに国語の教科目標と調査研究委員会の報告について、皆さん、資料1を開け
ていただけますでしょうか。

教科書・種目名、国語のまとめとなります。2枚にわたってまとめが書かれています。
しばらく時間を取りますので、こちらのほうに目を通していただけますでしょうか。3分
程度時間を取りたいと思います。よろしくお願い致します。

それでは、審議に移ります。御意見をお願いします。事務局に質問があれば、あわせて
お願いいたします。

なお、調査委員会のまとめは発行者順になっていますが、この順番でも結構ですし、ま
た、「この教科書が」とか「この発行者とこちらを比べると」という形でランダムに出し
ていただいても結構ですので、よろしくお願いいたします。

教科書を見ていただきながら自由に発言していただいて結構ですので、まとめの部分と
照らし合わせていただきながら感想などを言っていただけると。中学生の立場に立って、
勉強するならこの教科書がとか。

○ **委員** 質問というか、いいですか。これ、聞いてどなたか答えられるのか分からない
ですけれども、例えば光村の7番に「SDGsに関連する特設教材や聴解力を鍛える新しい教
材が提案されている」はどれのことか、今、一生懸命調べているのですけれども。

○ **委員** 中に入っているんじゃないの。

○ **委員** どれのことを指している。

○ **委員長** 光村ですよ。各学年に入っているのかな。

○ **委員** 学習の見通しをもとうのところ。

○ **委員** 最初に入っているのですか。

○ **委員** 分類しているのかなと思うのですけれども。

○ **委員長** SDGsは入っている。

○ **委員** 学習の見通し、一覧は分かるのですけれども、これはSDGsをどう。一応、何か
項目を当てはめているのか。

○ **教育指導課長** 表の一番下の、SDGsの項目に当てはまっているところが。これの一番
下に。これを当てはめているのだと思います。

○ **委員** 関連する特設教材は関連させて分かるけれども、「聴解力を鍛える新しい教材」
は何だろう。ごめんなさい。細かいところで。気になってしまって。

○ **委員** 聴解力というのも何か。

○ **委員** 不思議でしょう。

○ **委員** 聞いて、音声教材みたいなものということですよ。

- **委員** 音声教材が入っているのかな。
- **委員** 12ページ、具体的な学びのためにというのが各学年にあるか分からないですが、そこに、録画して振り返るとかICTと絡むところだと思うのですが。
- **教育指導課長** 多分、これ、例えば。
名前とか言ったほうがいいですか。副委員長、1つ発言します。
- **委員長** どうぞ。
- **教育指導課長** 17ページの左下に、作者のインタビューというのが書いてあったりとかするので、多分、こちらのQRコードを読み込むと、インタビューが聞こえたりだとか、その人の感想が聞こえたりとかするのではないかなと思われそうです。
- **委員** 最後のページに2次元コード一覧というのがありますよね。
- **委員** 朗読音声とか書いてある。これだ。話す。聞く。動画。音声。
- **教育指導課長** そうですね。
- **委員** 作者がいろいろ何か話をしてくれているということで、それがこれなんだね。分かりました。
- **委員長** そういうことですね。
光村以外に何か気になることとかはありますか。
- **委員** いいですか。気になるころとというと、教育出版のところでは漢詩が3年で取り上げられているのですが、確かにいろいろ関連を考えると、2年で学習するのが望ましいというのが研究委員会に出ていると。これが採択となりますと、教材の重複が。例えば来年の3年生が、今年の、結局、ない教材を違うところから持ってきたりとか、そういう、手間とってはあれですけども、補充となるものが必要となるということで、ほかの3つとはそこだけ異質だなというのが捉えられます。
- **委員長** そういう観点からでも結構ですので、お願いします。
東京書籍や三省堂に関する御意見はございますか。
- **委員** 三省堂の2番の「本区の生徒には平易と思われる」というのが、判断はできないのですけども、そういった考え方もあるというか。
- **委員長** 2番のところですね。
- **委員** そうです。2番のところ。文京区の子供たちにはそのように思われるということであれば、ちょっと違うかもしれないなというような感想を持ちました。
- **委員長** ありがとうございます。
- **委員** 同様に、東京書籍も「三大和歌集や『高瀬舟』などの脚注や解説など記述が少ないと思われる单元がある」というような。
- **委員長** 2番の部分ですよ。
- **委員** はい。
- **委員長** ほかに、この部分は子供たちにとってとてもよさそうかどうかというのはありますか。今回、これがいいとかと順位をつけるものではないので、自由に御意見をいただい

大丈夫です。

○ **教育指導課長** いいですか。

4冊のあるページを見比べたときに、例えば先ほど三省堂の話があったのですが、今の子供たちに、視覚的に表紙絵がアニメ調であったり挿絵にもアニメが取り入れられたりとかで親しみやすいと書かれているのです。例えば1年生の118ページの『竹取物語』は、こうやって見ると非常に美しいのは美しいのですが、私の個人的な感覚かもしれませんが、他の教科書と比べたときに、例えば1年生の84ページ、85ページなども、とてもカラフルに使われているのですが、私は個人的に、あまりにも色がたくさんあって、どこに重点が置かれているのかなという、見やすさというよりは、ちょっと明る過ぎてみたいところがあって、そこは4社と比べてみても、かなりこの教科書がすごく明るい感じがして、皆さん、どのように見られるかなと思われます。

○ **委員長** どうですか。皆さん。

浅野さん、どうです。

○ **委員** そう言われると、光村ですか。物すごく教科書っぽいですよね。

○ **委員長** 昔っぽいですね。

○ **委員** 昔の教科書っぽいですよね。そんなに、何か絵がどうのこうのというのは要らないのかなと思いました。色とか。

ぱっと見て思ったのが、この光村の『最後の晚餐』とか、美術とか、そういったところでも、「これ、見たことある」みたいのところだと内容が入ってきやすかったり、ほかの教科とリンクしていたりするの面白いのかなと思いました。

○ **委員長** ほかの教科とリンクするという意味で言うと、カリキュラムマネジメントがしやすいということも入ってくるかなと思います。

ほか、国語に関して御意見はございますか。

○ **委員** 国語はあまり挿絵は要らないのかなと思っていて、やはり文章からイメージするというのもあると思うので、そうすると、挿絵が多いと画一的なイメージをみんなが持ってしまうから、あまり挿絵はなくてもいいのではないかなと思いました。

○ **委員長** それは、三省堂を見てという感じですか。

○ **委員** どれがどうというのはないのですが、

○ **委員長** 多過ぎるということですよ。

○ **委員** そうですね。

○ **委員** どうしても絵を見てしまうみたい。

○ **委員長** そうですよ。こうめくってみると。

○ **委員** 絵のほうに先に目が飛んでしまう。

○ **委員** 教育出版、やたら字が多くないですか。

○ **委員** 教育出版は、題材ごとに学習活動の流れというのが一番最後に出ていて、それが、光村の3番に書いてあるように「学びへの扉」のような形なのですが、光村の

「学びへの扉」は子供目線の書き方。教育出版のほうは指導的というか、子供が見てももちろん分かるのですけれども、何か指導者目線のような形になっていて、子供としては光村のほうが扱いやすいかなと。ただ、教育出版のほうが端的に書いてあるので、長々と読まないから子供には分かりやすいかもしれないという、視点は子供目線ではあるけれども、大人目線のほうが分かりやすいかもしれないなというのがあります。

○ **委員長** では、国語の意見はこんなところで大丈夫ですか。

○ **担当** はい。

○ **委員長** それでは、国語、そのほかに御意見はございますでしょうか。

よろしいですか。

では、以上で御意見を伺ったということにしたいと思います。

それでは、次に書写に移りますので、また、報告書に目を通していただきたいと思ます。これですよね。

では、次は書写に移りますので、またしばらく時間を取りますので、まとめに目を通していただけますでしょうか。これは3ページ、1枚になっております。

それでは、審議に移りますので、御意見をお願いいたします。書写について、何か御意見はございますでしょうか。率直な感想でも大丈夫です。

○ **委員** 動画を見えていますよ。

○ **委員長** 筆の使い方とか。

○ **委員** 書いてくれている見本を。動画で書いてくれるのだけれども。

○ **委員** 光村図書はすごく実用的な感じがしました。手紙の書き方とかフォントの話とかが載っていたので、ずっと置いておいても使えそうな気がする。ほかはちょっと分からないですけれども。

○ **委員** ほかは分からないのですけれども、実用的なこういうのとかが書いてあると、すごく参考になります。

○ **委員長** 大人が見ても。

○ **委員** はい。今になって。手紙の書き方とか。

○ **委員** 「手紙を書こう」とかがある。

○ **委員** 職業体験のお礼でいただいたお手紙が物すごく立派で、きっとこういうものの一環で書いたのだろうなというのが、これを見てよく分かりました。

○ **委員長** 動画とかの感想でも大丈夫ですが。

○ **委員** 光村の3番で「左利きに配慮した動画」というのは面白いのかなと思ったり、参考になる。先生が多分教えられないので、これは有用なのかなとは思いました。

○ **委員長** 特に左利きに配慮した動画ということですよ。確かに。

○ **教育指導課長** いいですか。

光村と東書と2社を比べて、はがきの書き方とか手紙を書こうというところを見ているのですけれども、先ほどもいろいろな工夫があって、それだけではなくていろいろ使える

のではないかというところがあったのですが、やはり手紙一つ書くにしても、視覚的な見え方も、光村のほうは少し大きめに作られていて、子供にとってはすごく分かりやすいのかなと。説明文とかも。簡単な形で丁寧に書けるような内容。1枚めくっていただくと、入学願書のこととか、子供の実態に即したこととかも例に挙げられているので、非常に見やすいなと思いました。

○ **委員長** ありがとうございます。

東京書籍、三省堂について何か御意見はありますか。

○ **委員** 東京書籍は、あれこれ書いてあり過ぎるような気がするのです。

○ **委員長** 東京書籍があれこれ書いてあるような気がする。

○ **委員** はい。何か細かい。

○ **委員長** 一つだけ大きい教科書、教育出版はいかがですか。少し幅広の。

○ **委員** 何か理由があるのならいいのですけれども、大きいと机が。

○ **委員長** 使いますよね。

○ **委員** 何か理由があればいいのですけれども。

○ **委員長** 4番に「手本としてはやや使いづらい」ということは書いてありました。これは、ほかの教科書と比べても、なかなか。

○ **委員長** 難しいですよ。これを3年間使うとなると。

○ **委員** 本棚に置いておくと1個出ますよね。

○ **委員長** この部分だけちょっと出ますからね。

○ **教育指導課長** 書写だと、道具を広げるから、余計、あまり大きくないほうが望ましいですよ。

○ **委員** 机のスペースは大事ですよ。

○ **委員長** そうですね。

光村への御意見は多かったかなと思いますが、東京書籍もいただいて、三省堂は何かありますか。

○ **委員** 三省堂、きれいなんだよな。

○ **委員長** 新聞の書き方とかも載っていますね。グループ新聞。

でも、意外とお手本は使いづらいかもしれないと思ったり。

○ **委員** 光村は分厚いですね。

○ **教育指導課長** 三省堂は、先ほどの挿絵もそうなのですけれども、だから、あえて子供チックにしているところがあるなど。遊び心があっていると思われるのか、どうなのですかね。

○ **委員長** 親しみやすさと取るかどうか。中学校3年生まで使うという。

○ **委員** 先ほども職場体験のお礼状でという話がありましたけれども、東京書籍はキャリア学習とか防災学習とか書いてあって、教科横断を意識して作られているのかなと思いました。

- **委員長** 関連づけていますよね。
- **委員** もちろん、ほかも、構成上はそうなっていても、そこまでわざわざ記載されていないのを記載しているかなというのが特徴的かなと思いました。
- **委員** 教科横断という視点で言うと、光村などは、見開きのところに「総合」とか、結構、そういう他の教科との関連についても記載があるのです。
- **委員長** 子供が意識できますよね。
- **委員** そうですね。
- **委員** いいか悪いかはちょっと分からないですけども、教育出版が変わっているという言い方はあれだけども、毛筆と硬筆をいつも対比しながらやっているのですよ。動画も、あるところは毛筆を普通に書いて、今度、名前の書き方と同時に載せているのだけども、ここは毛筆と硬筆を同時に動画をやっている。それが国語的にいいかどうかは知らないけれども、特徴としてはそういう特徴があるかな。
- **委員長** きっと、あえてやっているのですよね。
 どうですか。書写については、御意見はこんな感じでしょうか。
 それでは、次の大物がありますので、書写については、以上、御意見をいただいたということにしたいと思います。
 社会の地理から行きます。
 地理的分野ですよね。地理的分野で、4ページ、5ページをまずお読みください。
- **委員** 地理的分野には地図帳が含まれるという理解でよろしいですか。
- **委員長** 地図はまた別にあります。
- **委員** 別ですか。
- **委員長** はい。
- **委員** 本当だ。
- **委員長** 地理は4社です。では、同じように、4ページ、5ページをまずお読みください。そして、比較のほうをお願いします。
 何か御意見はありますか。
- **委員** 地理は、写真は子供たちがぱっと見ると思うのですけれども、写真の印刷のクリアさ、その辺りというのも結構大事なのかなというところで、そうすると、帝国などはクリア。それに対して、日本文教出版などはちょっと。私の目が悪いのかな。
 写真のクリアさからすると、これもいいですよ。これは東書。東書、帝国はクリアな感じがするのですが、いかがですか。ぱっと。
- **委員** そうだね。シャープさがあるね。
- **委員** シャープさがあるのですよね。
- **委員長** 地理だとそういう部分が大きいですよ。リアルに映えるという。
 ほかに何か御意見はございますか。
 私、帝国書院の167ページの九州地方とか、183ページの中国・四国地方とか、こういう

地図と特色は、子供たちはすごく興味を引くのではないかなと思いました。

○ **委員** いわゆる、日本の諸地域につきまして、今、委員長が話されていた九州地方が、帝国書院とかだと167、166、日本の諸地域の始まりの「学ぶにあたって」というところが、教育出版と東京書籍はちょっとあっさりし過ぎているなど。というのは、いわゆる、それぞれいろいろな視点で、1つの視点についてまず見て、例えば交通とか自然とか、そういう窓口になる視点を持ってという、その「学ぶにあたって」のところが、教育出版と東書はあっさりしているなど。逆に、日本文教出版と帝国書院はその辺りがちゃんと書かれていて、学び方というものが子供たちもイメージしやすいかなと思います。

○ **委員長** 最初の部分ですよ。

○ **委員** はい。帝国でいくと166ページとかです。

○ **委員長** そういう比較も出てきました。

ほかに何か気になることはありますか。

大きさはみんな同じなのですよ。

○ **委員** 大きさは同じですね。

○ **委員** 変な中途半端な大きさでしょう。

○ **委員長** 先ほどの書写の大きい判だったですね。

○ **委員** 社会科はこうですね。

○ **委員** どうしてこれになったか分からない。

○ **委員** 飛び出るのでね。

○ **委員長** このサイズもあるんですね。

○ **委員** 何サイズというのかしらないけれども。

○ **委員** じゃあ、先ほどの書写も別にいいかなみたいな。

○ **委員長** 飛び出ないということが分かりました。

地理、どうですか。大丈夫ですか。ほかに何か。

○ **委員** どれがということではないのですけれども、地理は、写真も大事だけれども、今はいろいろグラフとか、そういうデータを比較したり分析したりというのが大きくて、それが適切な資料が出ているところがどこかとはすぐは言えないのだけれども、あと、データが最新じゃないと、2年、3年するとまた変わってきてしまうので、その辺が、比較はまだできていないのだけれども、でも、多少違いがあるかなと思いながら見ていますけれども。

○ **委員** 同じページを見てみましょうか。

○ **委員長** どうですか。

○ **教育指導課長** 私は、教科書全ての前のほうにある、例えば、地理の学習を始めるに当たってとか、教科書の使い方というページがあって、子供たちは、多分一番初めに、その教科担任のほうから、今回はこういう授業でこの教科書を使ってこんな学び方をするよというときに、やはり学習指導要領にある「主体的・対話的で深い学び」というところを、

いかに子供たちに落としていきながら、その流れに沿って授業を進められるかというところでの、多分、これが目安になってくると思うのです。

そこで、すごく見やすいなと思ったのが、中身は全部読み込んでないのですけれども、帝国と、カラーだけではなく読みやすいなと思ったのが、日本文教出版の辺りのものは、子供にとっては見やすいのかなとは思いました。

ほかの2社については、少し読みづらかったり、大まか過ぎるかなみたいなところもあって、皆さんどのように感じられたかなと思いました。もうちょっとじっくり読むと中身が違うかもしれません。

○ **委員長** 最初の部分は必ず通っていくところですよ。

○ **委員** データの新しさというのでいくと、人口とか。

○ **委員長** 比較できるものはありましたか。

○ **委員** 今、探っています。

教育出版が、アメリカの人口構成というのが100ページのグラフであるのですけれども、これは2017年なのです。ほかの2020とか2021とかに比べるとちょっと古さが。使っちゃいましたという感じですかね。

○ **委員長** では、データの新しさも、やはり視点に入れていかなくてはいけないということですよ。

○ **委員** 幾つかの教科書会社で、振り返って考えを書かせたりというところがあるのですけれども、教科書の材質的に、教育出版もあるのですけれども、例えば60ページとか76ページとか。子供が書きにくいというか、間違っても多分消え残るというか、そういう紙質なのかなと。意外と子供はそういうところを気にしたりする子がいるので。

○ **委員長** どの会社の紙質が気になりますか。

○ **委員** 教育出版。つるつるなので、多分消え残る感じがする。書くのも滑る感じ。

○ **教育指導課長** 色ペンとかもにじんでしまったりしたら。

○ **委員長** 教科書に書き加えることもありますからね。

○ **委員** 日本の人口の変化というのがあるのですけれども、移り変わりが。帝国だと153、東書だと171、教育出版は161、日本文教だと157、この辺りは比較できそうなページですね。

○ **委員長** 2020年。

○ **委員** そうですね。2020年のものが結構共通してあるのですが、東京書籍は2015かな。

○ **委員長** 2015ですね。

○ **委員** ですね。日本文教は2020、帝国は2020、教育出版は。

○ **委員** 2022だけれども、実際、20のものを出している。

○ **委員** 2020を出している。

○ **委員** 日本のはどこにあるんだ。最近のは。

○ **委員** ないね。

○ **委員** ないですかね。教育出版が見当たらない。2020年前後。

- **委員長** 教育出版は見当たらない。
- **委員** そうですね。1980年から2040年に飛んでいるな。理由があるのかな。
直近のものがあるといいかなと思います。
- **委員長** では、地理についてはここまでとしたいと思います。
続きまして、今日、社会、頑張ります。歴史。
歴史も4社。
- **委員** いや、歴史はたくさんあると思います。
- **委員長** そんなにある。
- **委員** 9社。
- **委員** 歴史が一番厳しい。
- **委員** 頭から行きましょうか。
- **委員長** 歴史、多かったです。6ページ、7ページ、8ページ、9ページです。
- **委員** 9社ですよ。
- **担当** 自由社は2冊しか見本本がなかった関係で、それぞれ、こちら側とそちら側に
1冊しか置いていない状況ですので、回し見していただくような形になります。
- **委員** 消去法になってしまうのかな。
- **委員長** 国史。
- **委員** これは中学生は嫌になってしまうかもしれない。文章がすごい。読み物としては面白いかもしれないですけども。
- **委員長** 教科書としては。
- **委員** いや、これは厳しいな。
- **委員長** 厳しいですね。では、御意見、ありがとうございました。
これは多いので、本当にどこを見ていくかどンドン、御意見があれば、気づいたところ
から言っていただいて大丈夫です。
- **委員** これは、地理と同じ会社とかはあるのですか。ルールは。社会は。
- **委員** 全然関係ないです。
- **委員** 関係ないですか。
- **委員** 山川も文字が小さいかな。高校で山川は有名ですけども。
- **委員** これは字が小さい。確かに小さい。
- **委員** ちょっと情報量が。1年生から歴史は使うので。1年生が山川の20ページを見たら、かたまってしまうかも。
- **委員** 高校の歴史といたら山川ですよ。
- **委員** そうですね。高校の歴史というイメージが強いですね。
- **委員** ちょっと詰まっているか。1年生から使うというのと。
- **委員長** そうですね。1年生から使うとなると。
- **委員** 3年間1冊ですか。

- **委員** 歴史はそうですね。3年生の半ばまで使います。1学期終わる前ぐらいまで。地理は1～2年で終わります。同時並行で進みます。
- **委員** 3年で公民に入る。
- **委員** 3年で公民に入ります。1学期の途中ぐらいから。
- **委員長** そういう意味で言うと、山川は高校生の教科書に近い。
- **委員** その印象で見えてしまうとよくはないのですが、やはり文字が小さくて情報量が過剰かなという感じはします。
- **委員長** では、山川、ありがとうございました。
- **委員** 学び舎というのを見ているのですが、太字がないな。
- **委員** 流れを抑える上でやはり重要な語句というものを、ある程度目立つようにしておくというのは、学ぶ上で必要なことだと思うのです。学び舎は、これは全く太字がないんだな。
- **委員長** では、学び舎も御意見をいただきました。
何か御意見はありますか。
- **委員** 随分昔と変わって、読みやすさもあるのですけれども。随分丁寧に書いてあると思うし、いいと思います。
- **委員長** 歴史は特にそうですね。
- **委員** 中学では、基本的に日本史を勉強して、それに関連する世界史を学ぶという感じなのですか。「日本の歴史」と書いてあるのと、単純に「歴史」というものが。タイトルには「日本の歩みと世界の動き」と書いてあるのもあったり、「日本の歴史」と書いてあるものもあったり、どういう勉強の仕方をするのかなど。
- **委員** ごめんなさい。もう一回お願いします。本に集中していて。
- **委員** 中学校の歴史は、日本史がばつとメインであって、メインストリートであって、それに関連する世界的な出来事に関連していくのか、パラレルに各地域の歴史もなぞっていくのかというのが。「日本の歴史」というタイトルの教科書と、「日本の歩みと世界の動き」とか、いろいろタイトル自体も違うんだなと思って。
- **委員** 学びの在り方としては前者になります。
- **委員** 日本の歴史がメインで。
- **委員** そうです。それと関わる世界の動きについては学びますけれども、それと直接的な関わりがないところについては、本来は。
- **委員** 中学ではやらない。
- **委員** はい。
- **委員** ヨーロッパとかは後半からしか出てこない。近代化ぐらいとかしか。あとは、ずっとアジア。
- **委員長** 何か感想はありますか。
- **委員** 今、ちょうど日本文教出版を見たのですけれども、ページの一番右側に時代の

軸が書いてあって、日本史をやっている分にはあまりなのかもしれないですけども、世界史とかに行ったときに、それが日本のどの時代に該当するのかというのがすごく分かりやすいかなとは思いました。

○ **委員** 東京書籍もある。

○ **委員** 東京書籍もあるのですね。

○ **委員** いや、結構あるのです。

○ **委員** 結構あるのですね。たまたま見ていたので。

○ **委員** 東書、帝国も結構あるなど思いながら。

○ **委員** これも一応あるのです。年表が。ゲージのように。

○ **委員** 本当だ。いろいろありました。すみません。お粗末です。

○ **委員長** なるほど。そうなのか。

○ **教育指導課長** 先ほど文字が太字になっていると、やはりそこが重要な部分だから大事なんだという話で、各社こうやって広げてみると、大体そのようになっている、ただ、何となく教科書会社によって文字の字体とか行間の幅とかが微妙に違って、広げてみたときに、先ほどの教科書もそうなのですけども、絵面というか、こういった表だったりあるいは写真だったりというところのバランス、それは多過ぎても、視覚的な資料が多過ぎてそちらに目がちらちら行って、本文に効かないとか。

あとは、私などは自分が中学生のときに、この太字の前後の文章から覚えてみたいなどころがあったりという活用の仕方をしていたので、そういうところの行間のところとかを見ると、私は個人的には、明る過ぎるなどというのもあるのですけれども、教育出版とか帝国書院がバランス的に見やすいなど。でも、やはり教育出版は少し明る過ぎるかなみたいなどころもあったりとか。個人的な意見ですけども。

○ **委員長** この帝国の見開きなどを見てみると、子供たちは学びやすいかもしれないですよ。

○ **教育指導課長** 見やすいですよ。

○ **委員** ちょっとあげつらってしまうと、学び舎の233ページに『ボクラ少国民』のところがあるのでですけども、そこが。例えば暴戾支那とか、この語句は一般的なのかなというようなものがあったり、ちょっと詳細な部分を特化している傾向があるかなとも感じます。

○ **委員** 同じような形で、自由社が大東亜戦争というのは、前回の教科用図書のときもそうですけれども、それがトップに書いてあるので、ちょっとそこは気になります。

○ **委員長** 自由社はそちらでも見えていますか。

○ **委員** 本校はいろいろな国籍の子もいるので、一部の国に対して間違っただ印象を植えつけないようにしなくてはいけないなどというのは感じます。

○ **委員長** そうですね。

東京書籍について、何か御意見はありますか。

- **委員** 見開きにしたときの、写真とか絵とか情報量がちょっと多いかなという印象です。
- **教育指導課長** その分、文字が詰まって見えるというか。
- **委員** 写真が大きいと見やすいという視点もあるのです。その分、文字が縮まってしまふというところもあるかもしれません。
- **教育指導課長** 東書のは写真とかは見やすいですか。
- **委員** 大きいほうが。
- **教育指導課長** 物自体が。例えばいろいろなものがあると思うのですが。
- **委員** 絵は大きいと、やはり子供たちは見やすいですね。その分、ちょっと文字がというのがあられるかもしれませんが。
- **委員長** どうですか。
- **委員** 私は、この東京書籍の、ぱっと見た感じの文字の大きさが、ほかのに比べると少し小さいのかもしれないのですが、それが逆に見やすいなどは思います。タイトルと、この本文の文字の大きさも違うからなのか。あと、行間かな。黒が落ち着いているのか紙の質が違うのか、何かてかてかしていない感じが、逆に落ち着いているような気がします。
- **委員** あれじゃないですか。写真をよく見せようとして、てかてかしたようになるのか。
- **委員** てかてかしていると目が痛いです。
- **委員** だから、目が痛くなるのか。
- **委員長** 教育出版とかは、光って見える部分がありますよね。
- **委員** 振り返りのところは結構大事なので、振り返りのところを。
- **委員長** 自由社について何かありますか。
- **委員** 若干偏った印象があるなど思っただけで。自由社は。
- **委員長** そういう御意見は大事です。
- **委員** 偏ったというか。
- **委員長** 育鵬社というのですか。これは何か御意見はありますか。
- **委員** 漢字に振るルビというのは何か決まりがあるのですかね。
- **委員長** 漢字に振るルビに決まりがあるか。
- **委員** それとも各社の自由な、感覚的なところなのですか。
- **委員長** そちらかな。
- **委員** 意外と簡単な漢字にもルビが振ってある。
- **教育指導課長** そもそも、中学1年で習っていない。
- **委員** 何々以降とか、そういうのも。
- **委員** 「近代化」に振ってあるとか。
- **委員長** それはどこの会社ですか。
- **委員** 帝国ですね。たまたま見たのですけれども。162ページに「近代化」とか「市民

社会」とか。でも、意外とみんな簡単な字にも振ってありますね。

○ **委員** 「市民社会」ですよ。太字につけている。

○ **委員** 結構ふりがなが多いね。

○ **委員** 多いのですよ。

○ **委員** 歴史の場合は、それぞれの時代を学んだときに、振り返りというのが実は大事で、それで大きく時代を捉えるという時間を取るのですが、その辺りについてちゃんとページを取っているかなという視点で、今、見ているのですけれども、そういう視点も大事かと思います。

○ **委員** それは各単元のおしまいでということですか。

○ **委員** そうです。おしまいに。

そういうのを考えると、ないものはないのですよね。自由社はちょっと見えない。

例えば、帝国書院だと224ページのようなところに、大きく振り返りがありまして、同様に、日本文教出版だと212ページ。

○ **委員長** 学習を振り返ろうのところで。

○ **委員** 東京書籍だと198。

○ **委員** これはみんな。

○ **委員** そうとも限りません。

教育出版は202ページにあるのですか、何か年表だけになってしまっている感じだな。考えを書いたりというものについて。次のページがあるのか。202ページですね。

そう考えると、山川出版はちょっと雑駁。

令和はないですね。

自由社も見当たらない。見てみるか。

あった。208ページに一応あるけれども、地図がなくて見つらいかな。

育鵬社は一応ある。

○ **委員** 帝国書院は1ページだけなのですからけれども、地理もそうだったのですが、この考えを整理するツールみたいなのが載っているのが非常にいいなと思いました。

○ **委員** そうですね。そういうのは使うと思います。

○ **委員** 多分、社会は文章を読んで覚えるとか年表とかがメインになってしまうので、こういう何か関連づけるとか、比較するという勉強の仕方というのが大事だというのは、やられるといいかなと思いました。

○ **委員長** 歴史は大体よろしいですか。

ありがとうございます。

続いて、地図の前に公民。今日は地図まで行きたいですよ。行けるかな。

公民は6。

○ **委員** 公民は大体駆け足になってしまう。

○ **委員長** 最後だから。

○ **委員** 非常に大事なのです。だから、ちゃんと確保するために、歴史で時間を取り過ぎずに終わらせるというのが大事なのですけれども。

○ **委員** 公民が差があるような気がします。

公民は順番は決まっていないのですか。何か随分違うなど。

○ **委員** 今、順番が教科書によって違うのです。大きく捉えると、政治と経済をどちらを先にやるかというところなのですが。

○ **委員** これとこれは。現代社会、政治、日本国憲法、生活と政治、経済、国際社会。

○ **委員** 憲法から入るのが多い。ではない。

○ **委員** 現代社会から入るのが取っかかりやすい。政治、経済。

○ **委員** 学習指導要領上は経済が先に書かれていますが、政治、人権を先にというのも。

別に教科書どおり進んでいく必要はないので、授業者が組み換えてやる分には全然構わないです。例えば経済でも、家計と企業についてはイメージしやすいですけれども、財政ということになると、政治を学ばないと財政については分からないでしょうという考えから、財政だけ後ろに置いてというやり方などを私はしてきました。だから、教科書どおり行かなくて、「先生、模試の順番が違うんだけど」と叱られたことがありますが、「最後はちゃんと大丈夫だよ」という話はしたのですけれども。

○ **委員長** 最終的に。

○ **委員** 全部、政治先習になってしまっているんだな。だから、個人の尊厳とかその辺りを最初にやるというようにしてしまっているのですね。

○ **委員** 章のタイトルとか節のタイトルは、全部そろっていない。公民。

○ **委員** そうですね。

あまり覚えさせるだけじゃなくて、できるだけアクティブなものがあるといいのですけれども、こういうような、帝国だとアクティブ公民などというのが書いてあって、いわゆる、活動型のアクティブラーニングについてちゃんと項目を設けてやっている。ほかにもあると思うのですけれども。

○ **委員長** ディベートのしやすさみたいなものも、帝国書院などは使いやすいのかなと思います。子供たちがこの資料を基にどのように考えていくかということをお互いに意見が出しやすいほうがいいですね。

○ **委員** 探せないのですけれども、教育出版には、こども基本法が2022年に制定されたよということは載っていますか。これは人権のところですよ。載っていないかなと思って。

○ **委員** 子供の人権だとそうですね。

73ページですかね。

○ **委員** ありますか。

○ **委員** 教育出版だと73ページですか。

○ **委員** ありました。すみません。違うところを見ていました。こっちにあったか。

- **委員** 子供の権利条約はどこも載っているかな。
- **委員長** このまとめだと、どの教科書に対しても肯定的な御意見ばかりなのですが、皆さんが見ていて何か気になる点があったら教えてください。
- **委員** そうしたら、ちょっと比較したいのが、「対立と合意」という考え方なのですが、これが非常に重要な考え方になるのですけれども、東京書籍だと25ページです。日本文教だと28。育鵬社が30ページ。「対立と合意」「効率と公正」という、いわゆる事例に基づいて学んでいかないと、ただ単に「対立と合意」「効率と公正」の言葉だけを覚えても全く意味がないので、そういう取組があるといいかなと思います。

それはどこですか。

- **委員** 帝国。これはこれでいいの。
- **委員** そうですね。

例えば、帝国だと22ページに、ロールプレイングで「対立と合意」と「効率と公正」のこうやって学ぼうみたいなのがあるのです。

あとは、いわゆる決まりづくりのところなのです。東京書籍だと28ページに、いわゆる体育館を利用する部活動3つでどのように使っていくか。解決のための話し合い、決まりをつくる上で考え方を、実際に体験しながら学んでいくということができるようになっている。教育出版だと30ページ。日本文教だと、ちょっと扱いが小さいかな。公園づくりについて34ページにありましたね。部活動とかだと結構分かりやすかったりしますね。身の回りのことであれば。

- **委員長** それは育鵬社。

子供目線でいかがですか。

東書もあれかな。見やすい。

- **委員** あとは、最後、公民的分野は、地理歴史の基本的分野の学びを受けて、自分で課題を見つけて探究するというページがちゃんと適切に載っているほうがよいかないところなのですけれども、最後に必ずあるはずなのですが、その辺りの学びやすさも御覧いただけるといいかなと思います。

- **委員長** 育鵬社は先ほどもありましたが、探究というのが下にくっついているのです。ページの下のように。

- **委員** これは、自由社は、課題の探究はディベートなのですね。自分で何かまとめるというものの後にディベート。どうなのだろう。

- **委員長** 自由社ね。

そろそろ時間ですけれども、何かほかに御意見はございますか。

- **委員** やはり、内容からしようがないのかもしれないけれども、QRコードとかが少ないというのが感想で、どういう活用ができるか分からないですけれども。

ただ、先ほどあったように、帝国書院のアクティブうんたらというのは面白いのかなとは思いました。やはり、単に受動的な形からは抜け出せるので。たしか帝国さんでしたよ

ね。

○ **委員** そうです。

ほかの東京書籍とかでも、例えば130とかでも、コンビニの経営者になってみようとかが、できるだけそういうのがあるといいですね。

○ **委員長** どうですかね。御意見としては出てきたかなという感じでよろしいですか。すみません。もう7時半を過ぎてしまったのですけれども、地図まで行ってもいいですか。地図2社。

○ **委員** これ、見たことある。

○ **委員** いや、どちらかというと、それしか見たことがないと言ったほうがいい。

○ **委員** これ、見たことあるな。

○ **委員** これでしたよね。

○ **委員** シェア、どれぐらいなのか。

○ **委員** 茶色みたいな緑みたいなものだけでも、見た記憶があるな。

○ **委員長** 見慣れているのは帝国ですかね。

どうですか。比較して。地図2社、御意見ください。

○ **委員** きっと、どちらが見やすいとこだよね。

中部地方。こちらのほうが見やすすくない。

濃淡がはっきりしているね。帝国書院のほうが。

○ **委員** 帝国のほうがシャープでしょうね。

○ **教育指導課長** すごくシャープ。紙質も何か違いますよね。

○ **委員** ちょっと違うか。ちょっとこっちつるつるしている。

○ **委員** 帝国さんのほうが、色があればなので、標高差がすごく分かりやすい。

○ **委員** 分かりやすいですね。何か地図っぽい。

○ **委員** 立体的に見える感じはします。

頭の中で、色でそうになっているか。

○ **委員長** なじんでいるから。

○ **委員** 確かに同じ見た目だけれども、確かに色のサイズは分かりやすいですね。

○ **教育指導課長** 地図本体もそうなのですからけれども、今、一緒に確認したのですが、例えば統計のところとかも、両方見比べると、やはり帝国のほうがクリアで見やすい。数字、それから、あとは、こういった小さい地図の表現的のところも、こちらのほうがクリアで見やすいです。

○ **委員長** では、御意見をいただきました。

よろしいですか。ほかに何かありますか。

では、地図が終わりました。数学に行きます。すみません。数学まで行かせてください。

数学は7。では、まとめのほうも読んでいただきながら、お願いします。

では、気になったところからでもいいので、御意見があればお願いします。

- **委員** 基礎資料に、デジタルコンテンツ、「豊富」「多くない」「豊富」「多くない」という形で、結構差があるのですかね。
- **委員** 差はあるのです。
- **委員** 東書は「豊富」。大日本図書は「あまり多くない」、学校図書は「あまり多くない」。教育出版は記載がない。啓林館は「豊富」といった記載ですよ。
- **委員長** 40ページ、41ページの話ですよ。
- **委員** はい。
デジタルコンテンツは、実際使うのですか。
- **委員** デジタルコンテンツは、QRコードを読むと、会社によって随分差があって、そこにアニメーションみたいなのが出てきたり。アニメーションというか動画が出てきたり。動画というかグラフで動いたり、図形で動いたりというのが出てくるところと、QRをやると問題がいっぱい出てくる、ドリルみたいなのがいっぱい出てくるところとか、デジタルコンテンツの使い方が会社によってちょっと違うかな。
- **委員** 例えば問題が多いのは啓林館なので、それだからだと思うのですが、ほかよりも若干薄いのです。
- **委員** 教科書は薄いんだよね。
- **委員** なるほど。
- **委員長** 確かに厚みが。
- **委員** 確かに問題はそれでいいような気がしますよね。
- **委員** ただ、啓林館は、文京区の子とはいっても、やはり数学は割と習熟に差があるので、ちょっと難しいかなという印象は。
- **委員** 啓林館、難しいんだ。
- **委員** 啓林館は難しくて、例題も最初から難しい。例えば、いきなり例題で少数とか出てきたり、できる子たちは考えるから全然いいのですよ。でも、できない子にとっては結構不親切なところもあるかな。
- **委員** 厳しい。
- **委員** だから、できるところは使っているところが結構多い。
- **委員** 確かに、いわゆる、遊びといたら変ですけども、そういう情報が少ないですね。
- **委員** 真面目だね。
- **委員** 真面目な感じですよ。確かに真面目な感じはする。余分な情報が。
- **委員** 平方根な覚え方とか。
- **委員** 先生方、最近では、デジタルコンテンツの使われ方はどうなのですか。すごく漠然とした質問で申し訳ないのですが。
- **委員** 多分、英語とか数学も、教科書会社がいろいろ工夫して、英語などはそれで音が出てきて、読めなかったのが音で最初に分かるとか、有効に使えばいいし、数学は、先

生が授業する上でやりやすい、やりにくい、では、これを見てねと。カメラで撮ってね。

QRコードを撮って見てみようという使い方が、その先生によって違うというか、使い勝手が教員のほうの部分であって、ただ、英語と数学は、文京区もデジタル教科書が実は入っているのです。だから、子供たちが使うので、デジタル教科書を活用という、またいろいろ違ってくるかなと思うのだけれども、これは、完全に紙のものでQRを読んで、紙だけの話なので、それは、多分、先生たちというか、子供たちが理解しやすいかしくいか、あるいは問題で使うのだったら使い勝手がいいかどうかとか、そういう話かなと。ちょっと分かりづらいかもしれないです。私も、QRを読み過ぎて疲れてしまった。どんなのがあるか全部は見れていないけれども。

○ **担当** いいですか。

○ **委員長** どうぞ。

○ **担当** 担当からお話をさせていただければと思います。

先ほど出ましたデジタルコンテンツ、量に差があるということなのですが、評価のまとめのほうを見ていただくと、より詳しく書いているかなと思います。

東京書籍のほうは、1人1台タブレット端末がありますので、学習者用デジタル教科書を使用する際に豊富という形で書かせていただいております。

大日本図書については、シミュレーションや説明の動画に強さを持っています。

学校図書も同じようなのですが、こちらはアニメーションも少しプラスアルファで作られているというような特徴がございます。

教育出版は、統計ツール等に強い特徴がございます。

啓林館は、先ほどお話がありましたとおり、補充問題等をそこに入れてありますので、その分、厚さの部分に差があるということになっています。

数研出版については、自由に操作できるというところをコンセプトにしております。

最後、文教出版につきましては、ペンツールがありますので、そこで書き込みができるような特徴があります。

以上でございます。

○ **委員長** ありがとうございます。分かりやすかったです。

○ **担当** こちらのまとめを見ていただくとよいかと思います。

○ **委員** いわゆる、身の回りとかに関わる記載があると入りやすいかなと思うのですが、例えば、東書の128ページみたいなのが、相似な図形というところで、スマホ、タブレットで拡大できるよという、どのように拡大されているのかなみたいな。入りやすいなという感じなのです。

○ **委員長** 何年生。

○ **委員** 3年生です。

そう考えると、数研出版も全部そうなのかな。

○ **委員** 導入は会社によって随分入りは違う。

- **委員** 教育出版もタブレットを使って、相似を。
- **委員** どういうことに使われているのみたいな。
- **委員** 啓林館は、いきなり身の回りのことについての記載がないみたいな。
学校図書も、そういう身の回りのものを書いてあるな。
- **委員長** じっくり見っていますが、どうですか。
- **委員** 答えがないです。
今、問題を解いていたら分からなくなってしまっ。
- **委員** どれも大体あるんだ。
- **委員長** どこもいろいろ工夫はしていますよね。
- **委員** 例題は簡単にしてほしいな。できなかった者としては。例題でつまずくと一気にやる気がなくなるもんな。
- **委員長** どうですか。
- **委員** 1 ページに書いてある量があまりたくさんではないほうが、できない子にとっては一つずつやっていけるような気がします。
- **委員長** 日本文教出版。
- **委員** 別にこれがというわけではないのですけれども、先ほどの最初のほうに見たものが。
- **委員** 大日本図書の、仕事の中の数学という記事みたいものがちょこちょこ入っていて、「何のために数学をやるの」みたいな話がよく出てくると思うのですけれども、そういうところに一つのアイデアをくれるというのでは面白いかなと思いました。
- **委員** 大日本図書は『こち亀』を載せていますね。これだけでちょっと。1年生の164ページ、『こち亀』が載っています。
- **委員** おばけ煙突ですか。
- **委員長** 同じ1年生の大日本図書の、正多面体を作ろうというのは、どこにも入っているのですか。
- **委員** 結構入っている。入っていないところもあるかもしれない。
- **委員長** こういうのはやはり授業で活用しますか。
- **委員** 活用はしますけれども。
- **委員長** それで終わる。
- **委員** 今、いわゆるプラスチックの模型みたいなものがいっぱい教材としてあるので、紙として、昔はそれを使っていたかもしれないけれども、ポリドロンというものがあったり、いろいろ違う教材は使うので。別にあってはいけないものでもないし。
- **委員長** なくて困るわけでもない。結構入っているのですね。
- **委員** 展開図として学ぶのはいいけれども、これを一々組み立てるのは面倒くさいですね。
- **委員** ただ、図形などは、特に立体ができないので、作業させることはすごく大事か

など。だから、箱を壊したりすることも減ったし、何か物を作ることも減ったから、作業をやらすということ自体は悪くないと思うけれども。

○ **委員長** デジタルコンテンツについての違いは出ましたよね。あとは、中身について、見やすさということが出ましたが、ほかに何かありますか。

○ **委員** 計算問題なども、何となく難易度の差はなくはないです。

○ **委員長** 文京区の子に適切な難易度というのはありますか。

○ **委員** 先ほどの啓林館とか数研出版とかは若干難しめかなと思います。

○ **委員** 説明が難しめなのですか。

○ **委員** 問題が。

○ **委員** この数研出版、確認問題、問題A、Bとか書いてある。

○ **委員** 難易度が分かれているほうがいいですね。全員Aまで。できる人もいる。

○ **委員長** 習熟度に合わせたという。

大体、御意見は出ましたかね。

よろしいですか。

では、お疲れさまでした。本日は数学まで行きましたが、ここまでということにしたいと思います。

この答申文のまとめ方について、どのようにするか諮りたいと思います。副委員長のほうからお願いいたします。

○ **教育指導課長** 本日、皆様からいただいた御意見を事務局で答申文案としてまとめます。次回、25日に内容を御確認いただく形を取らせていただければと考えておりますけれども、よろしいでしょうか。

(「はい」と声あり)

○ **教育指導課長** そのことについて、次回の審議会で審議できればと存じます。よろしく申し上げます。

○ **委員長** それでは、副委員長からの申し出のとおり、審議過程を踏まえて事務局に答申文案のまとめを作成していただき、確認する形でよろしいでしょうか。

(首肯する委員あり)

○ **委員長** それでは、事務局のほう、よろしく申し上げます。

○ **担当** 答申文案の内容につきまして、項目数につきましては、各教科を3項目ないしは4項目程度で統一させていただきまして、事務局のほうで整えていくということで御理解いただいてよろしいでしょうか。

(首肯する委員あり)

○ **担当** ありがとうございます。

以上です。

○ **委員長** それでは、特段影響がないといった御意見については、このところでは触れないで、全ての教科書会社、同じような項目数で答申文を作っていくということでござ

いますが、それでよろしいでしょうか。

(首肯する委員あり)

○ **委員長** それでは、そのようにしていただきたいと思います。

25日に答申文案が示されますので、また、次回で審議できればと思います。次回は6月25日、来週6時からです。理科、音楽、美術、保健、技術家庭、外国語、道徳の審議を行います。

委員の皆さんは、後日、事務局から配付される予定の審議会の答申、教科書の見本をあらかじめ御覧いただけると、審議の進みも円滑になると思います。それぞれ、御多用とは存じますが、どうぞよろしくお願いいたします。

○ **担当** 最後になりますが、第1回目の議事録を資料2としてお配りさせていただいております。何かお気づきのことがございましたら、次回までに御連絡いただけたらと思いますので、よろしくお願いいたします。

○ **委員長** では、議事録のほうも、次回までに御意見があれば、事務局のほうに連絡をお願いいたします。

ほかによろしいでしょうか。

それでは、以上で本日の審議を終了いたします。どうもありがとうございました。